

「柏崎の水」

東本町 熊野清泉

正徳5年(1715)、柏崎で3番目に古い俳句集「小太郎」が出版された。小太郎は「柏崎四十八題」とも呼ばれ、当時の柏崎名所というべき神社・仏閣・名勝など48箇所を詠んだものを収録している。ここにみえる熊野清泉は「俗に薬の水といふ」と紹介され、清流のような挿絵が添えられている。

塵ひとつなきを鏡の泉かな　字曲
音なしの川有明の泉かな　重英

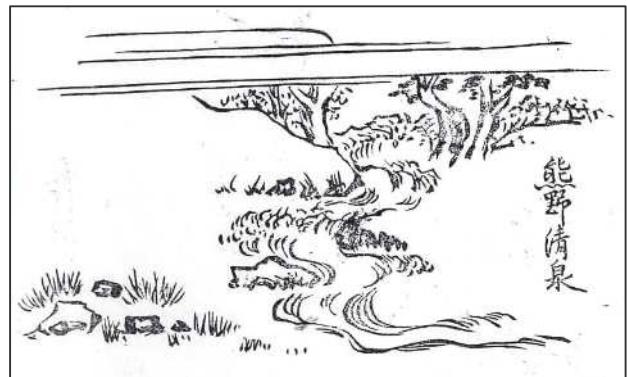
昭和24年の越後タイムスに連載された「今は昔柏崎四十八題」によれば、熊野清泉には清冽な水がこんこんと湧き出しており、水は冬温かく夏冷たいものであったという。

熊野清泉は文字通り熊野権現近くに湧き出していた。柏崎文庫記載の絵図でも「熊野清水」として熊野社のそばに描かれている。熊野権現は現在の南町交差点から市役所方面へ向かう坂道近辺にあったと思われ、権現小路という名前の由来にもなっている。また、「白川風土記」では

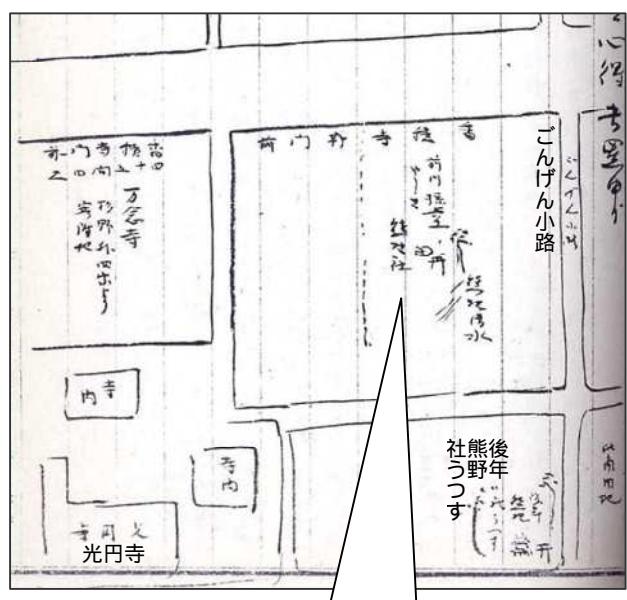
町ノ横小路ノ南ノ方ニアリ、此町ノ産土神ニシテ、
祭日ハ三月十五日、勧請ノ年代詳ナラス
と解説されている。権現社は最初、この地の旧家・
前川氏の屋敷にあったが、後に権現小路の南端へ
移転、明治4年には柏崎神社に合祀された。



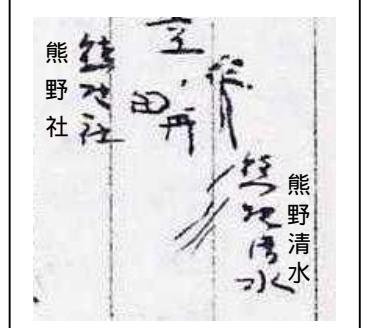
権現小路



「小太郎」の挿絵



上：
熊野権現と熊野清水
(柏崎文庫より)



右：
上図の熊野権現の
部分を拡大

参考にした本
「小太郎」市川笠晃 編(913 仔)
「柏崎文庫」関甲子次郎 著(080 仔)
「柏崎を中心とする俳句の歴史」庭山暁雲 著(913 二)
「砂丘の台地に生きる」中央地区コミュニティ振興協議会(224 K 二)